

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 25 年 6 月 3 日現在

機関番号：34305

研究種目：基盤研究(B)

研究期間：2009～2012

課題番号：21330027

研究課題名（和文）ラテンアメリカと中東欧の政治変動比較－民主主義の定着過程の比較動態分析

研究課題名（英文）A Comparative Study of Political Changes in Latin America and Central and Eastern Europe: Comparative Dynamic Analysis of the Processes of Democratic Consolidation

研究代表者

林 忠行 (HAYASI TADAYUKI)

京都女子大学・現代社会学部・教授

研究者番号：90156448

研究成果の概要（和文）：

この研究では、中東欧とラテンアメリカでの民主化やその後の体制転換の過程を比較研究した。そこでは次の知見が得られた。1) 両地域では民主化後の体制転換での政策や制度形成を比較すると、多くの共通の性格が観察された。ただし、2) それぞれの地域内でかなり大きな差があり、またその地域内の差異そのものには共通したパターンを見いだすことが出来た。それらは、各国の政治の中の新自由主義的経済政策を引き込む「プル要因」という変数の差として説明できる。

研究成果の概要（英文）：

In this joint study, we examined democratization and transformation processes, comparing the countries of Central and Eastern Europe with Latin America. Our main cross-regional findings included: (1) despite differences in political and party systems, there were significant commonalities in policies and institution-making; (2) although differences among countries in each region seem not minor, there was a discernible similar pattern of political variance within both regions. These effects can be explained by the variable “pull factors” of neoliberal economic policy embedded in the political party system of each country.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2009年度	4,000,000	1,200,000	5,200,000
2010年度	3,600,000	1,080,000	4,680,000
2011年度	3,600,000	1,080,000	4,680,000
2012年度	2,300,000	690,000	2,990,000
年度			
総計	13,500,000	4,050,000	17,550,000

研究分野：社会科学

科研費の分科・細目：政治学

キーワード：ラテンアメリカ、中東欧、政党システム、新自由主義、比較政治、民主主義、民主化、福祉国家

1. 研究開始当初の背景

ラテンアメリカと中東欧での権威主義体制(ラテンアメリカの場合はいわゆる権威主義体制、中東欧の場合は社会主義体制)の崩壊から一定の時間が経過し、またその間に両地域の民主化等についての比較研究も出ているが、実証分析が不十分なままにとどまっていた。中東欧に関する研究は、すでに本研究参加者たちによって着手されていたので、それにラテンアメリカ研究者を加えた地域間比較が可能であるという見通しのもとで、両地域を専門とする地域研究者による具体的な事例に基づく、より実証的な比較研究を行うこととした。また、わが国に限れば、体系的な地域間比較という試みはきわめて少なく、その欠落を埋める試みでもあった。

2. 研究の目的

ラテンアメリカ諸国および中東欧諸国を主たる対象として、これらの諸国における非民主主義体制から民主主義体制への移行(あるいは転換)の過程、およびその帰結について、比較政治学の立場から多面的な地域間比較を行う。その場合には、既存の理論研究を意識しつつ、現地の事情に精通した地域研究者による具体的な事例研究に基づく比較を目指した。その意味においては、地域研究と理論研究を架橋することも目的とされた。

3. 研究の方法

設定したいくつかのイシュー(社会政策、新自由主義、市民社会組織等)について、当該両地域の専門家による比較分析を主たる内容とする研究会を重ね、またそれに沿ってそれぞれの専門地域についての現地調査を並行して進めた。また、本研究の参加者以外の専門家を研究会に招き、検討対象となる事例の範囲を広げる努力を行った。それらの事例を成果を比較政治学的な理論の視角から総合的に分析する作業を進めた。

4. 研究成果

(1) 研究対象とした両地域における民主化やその後の体制転換の過程は基本的には共通の性格を持つ。

(2) しかし、その受容の程度や具体的現れ方にはそれぞれの地域内で同様な相違が観察された。

(3) その差を生み出す要因としては、例えば、各国の政党政治のネオリベリズムを引き

込む「プル要因」の差として説明できること、具体的には政党政治の中に組み込まれたネオリベリズムの位置やその争点化の形の違いが重要であることが確認された。

(4) さらに、ネオリベリズムをめぐる争点は各国の政党政治の形や安定度に大きな影響力を持っていたことなども確認された。

(5) なお、この共同研究の成果のひとつとして、村上勇介・仙石学編『ネオリベリズムの実践現場—中東欧・ロシアとラテンアメリカ—』京都大学出版会、2013が出版された。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 39 件)

① 林忠行 「スロヴァキア政党政治における『第二世代改革』—遅れてきた新自由主義の『成功』と『定着』」 村上勇介・仙石学編『ネオリベリズムの実践現場—中東欧とラテンアメリカ』京都大学出版会、2013、137-162.

② 林忠行 「ポスト共産期の東中欧諸国の地方制度改革—広域自治体設置問題をめぐって」 仙石学・林忠行編『ポスト社会主義期の政治と経済—旧ソ連・中東欧の比較』査読あり、2011、49-77.

③ 林忠行 「体制転換後のチェコとスロヴァキアの政党政治」 羽場久美子・溝端佐登史編『ロシア・拡大 EU』ミネルヴァ書房、査読なし、2011、153-171.

④ 林忠行 「東中欧における民主化とナショナリズム—チェコスロヴァキアの事例から」 田中浩編『ナショナリズムとデモクラシー』未来社、査読なし、2010、163-182.

⑤ 村上勇介 「ネオリベリズムと政党—ラテンアメリカの政治変動」 村上勇介・仙石学編『ネオリベリズムの実践現場—中東欧とラテンアメリカ』京都大学出版会、2013、199-231.

⑥ 村上勇介 「ペルー左派政権はなぜ新自由主義路線をとるのか?—『左から入って右に出る』政治力学の分析—」『ラテンアメリカ・レポート』査読あり、29巻2号、2012、23-36.

⑦ Murakami, Yusuke, "Aquí las personas cambian, teniente, nunca las cosas": una reflexión sobre la política peruana actual desde una perspectiva institucional", *Revista Argumentos*, 査読あり, No.29, 2012, 6-12.

⑧ Murakami, Yusuke, "Asia del Este y la política exterior del Japón: desafíos para el siglo XXI", *Agenda internacional*, 査読あり,

2012, 19-54.

⑨村上勇介「断片化が続くペルー政治—2011年大統領・国会議員選挙の一分析」『ラテンアメリカ時報』査読なし, 54巻3号, 2011, 33-37.

⑩村上勇介「地域社会開発への住民参加—ペルーの事例から」篠田武司・宇佐見耕一編『安心社会を創る—ラテン・アメリカ市民社会の挑戦に学ぶ(「失われた10年」を超えて—ラテン・アメリカの教訓第3巻)』新評論, 査読なし, 2009, 131-152.

⑪村上勇介「折り返し点を通過したペルーの第2期ガルシア政権」『ラテンアメリカ時報』査読なし, 2009, 131-152.

⑫仙石学「中東欧諸国における『ネオリベラリズムの改革』の実際—『さらなる改革』が求められるのはいかなる時か」村上勇介・仙石学編『ネオリベラリズムの実践現場—中東欧とラテンアメリカ』京都大学出版会, 2013, 163-197.

⑬仙石学「ポスト社会主義国における福祉政治—『社会主義型福祉世界』から『多様な福祉世界の並存』へ」『福祉政治(福祉+a2)』査読なし, 2012, 169-183.

⑭仙石学「中東欧諸国におけるケア枠組みのジェンダー的側面—女性に期待される役割が国により異なるのはなぜか」『比較政治学会年報』査読あり, 13号, 2011, 1-32.

⑮仙石学「ポスト社会主義の中東欧における福祉枠組みの多様性—あるいは『体制転換研究』と『福祉政治研究』の架橋の試み」仙石学・林忠行編『ポスト社会主義期の政治と経済—旧ソ連・中東欧の比較』査読あり, 2011, 263-299.

⑯ Sengoku, Manabu, "Welfare State Institutions and Welfare Politics in Central and Eastern Europe: the Political Background to Institutional Diversity", Hayashi Tadayuki & Atsushi Ogushi (eds.), *Post-Communist Transformations: The Countries of Central and Eastern Europe and Russia in Comparative Perspective*, Sapporo: Slavic Research Centre (Hokkaido University), 2009, 145-178.

⑰ Izuoka, Naoya, "Argentina's Barter Clubs as 'Complementary Club Markets': Reelaborating Gómez's Thesis" 『法学研究』(慶應義塾大学法学会) 査読なし, 83巻12号, 2011, 658-696.

⑱出岡直也「協同セルフヘルプ型(「クラブ財型」)集合行為におけるコミットメントと忠誠—ラテンアメリカの事例から」『年報政治学』査読なし, II号, 2011, 133-166.

⑲出岡直也「ブラジルとアルゼンチンにおける政党政治の変容と民主主義—州レベルの「伝統政治」という視角からの考察—」佐藤章編『新興民主主義国における政党の動態と

変容』アジア経済研究所所収、査読なし、2010、245-288.

⑳出岡直也「オルタナティブ通貨はどのような『社会運動』なのか」『法学研究(慶應義塾大学法学会)』査読なし, 83巻3号, 2010, 131-165.

㉑月村太郎「クロアチアの『ヨーロッパ』入り」羽場久美子・溝端佐登史編『ロシア・拡大EU』ミネルヴァ書房, 査読なし, 2011, 187-203.

㉒月村太郎「バルカン地域における非バルカン化—旧ユーゴ後継諸国の現状と展望を中心に」『同志社政策研究』査読あり, 5号, 2011, 89-106.

㉓月村太郎「旧ユーゴ連邦の後継諸国」『ヨーロッパ政治ハンドブック』[第2版] 査読なし, 2010, 238-255.

㉔月村太郎「エスニック紛争の構図—発生、激化・拡大、予防・解決」『同志社政策研究』, 4巻, 2009, 24-46.

㉕月村太郎「民族浄化(ethnic cleansing)について—ボスニア内戦を念頭に」『年報政治学』II号, 査読なし, 2009, 31-49.

㉖平田武「『歴史の遺産』とその影響—旧東欧諸国における政治発展と制度選択—デモクラシー」仙石学・林忠行編『ポスト社会主義期の政治と経済—旧ソ連・中東欧の比較』査読あり, 2011, 19-48.

㉗平田武「東中東欧諸国における政党システムの『安定化』をめぐる」仙石学・林忠行編『体制転換の先端的議論』北海道大学スラブ研究センター, 査読なし, 2010, 21-62.

㉘平田武「政治発展と政治体制」『東欧史研究』査読なし, 2010, 32巻, 48-68.

㉙中田瑞穂「政党のリンケージ戦略と政党間競合パターン—チェコ共和国を事例に」査読なし, 2012, 59-106.

㉚中田瑞穂「政党戦略と政党間競合—東中東欧政党システムにおける二極競合化?」仙石学・林忠行編『ポスト社会主義期の政治と経済—旧ソ連・中東欧の比較』査読あり, 2011, 109-143.

㉛中田瑞穂「EUのジェンダー平等政策と国内ジェンダー・パラダイム—チェコ共和国を事例に—」『比較政治学会年報』査読あり, 13号, 2011, 101-133.

㉜中田瑞穂「議会制民主主義への突破と固定化—経路、課題、結果(4)」『名古屋法政論集』査読なし, 2011, 147-207.

㉝中田瑞穂「チェコとスロヴァキア」『ヨーロッパ政治ハンドブック』[第2版] 査読なし, 2010, 105-116.

㉞中田瑞穂「議会制民主主義への突破と固定化—経路、課題、結果(3)」『名古屋法政論集』査読なし, 2010, 153-190.

㉟中田瑞穂「中東欧諸国」網谷龍介・伊藤武・成広孝編『ヨーロッパのデモクラシー』ナカ

ニシヤ出版, 査読なし, 2009, 355-391.

③⑥横田正顕「ユーロ危機下の南欧労働運動—スペイン・ポルトガルの場合」『連合総研レポート DIO』査読なし, 270号, 2012年, 13-16.

③⑦横田正顕「スペイン・ポルトガルにおける『遅れてきた』福祉国家の軌跡」新川敏光編『福祉レジームの収斂と分岐 脱商品化と脱家族化の多様性』ミネルヴァ書房, 査読なし, 2011, 260-287.

③⑧上谷直克「新自由主義の功罪と『左傾化』—背景と実際」村上勇介・仙石学編『ネオリベラリズムの実践現場—中東欧とラテンアメリカ』京都大学出版会, 2013, 233-271.

③⑨上谷直克「大統領への“挑戦”と“失墜”に関する数理モデル分析—ラテンアメリカ諸国の事例をもとに」『アジア経済』査読あり, 53巻6号, 2012, 2-34.

〔学会発表〕(計13件)

①林忠行「地域研究からみる日本国際政治学会」日本国際政治学会大会, 2012年10月19日, 名古屋国際会議場(名古屋市)

②村上勇介「ポスト新自由主義期ラテンアメリカにおける民主主義の課題—ペルー・ウマラ政権の事例—」日本ラテンアメリカ学会定期大会, 2012年6月2日, 中部大学(春日井市)

③仙石学「体制転換期における中東欧の福祉枠組み再編と女性—再伝統化か、レッセフェールか、新たなモデルの構築か」日本比較政治学会研究大会, 2010年6月20日, 東京外国語大学(府中市)

④仙石学「中東欧諸国における福祉枠組みの再編—制度の視点からの『政治変容』の分析」日本国際政治学会大会, 2009年11月6日, 神戸国際会議場(神戸市)

⑤出岡直也「ブラジルとアルゼンチンにおける政党政治—『伝統政治』と民主主義の質をめぐって」日本比較政治学会研究大会, 2009年6月27日, 京都大学(京都市)

⑥平田武「民主化・市民社会・中欧論から20年—東中欧比較政治研究の認識枠組み」ロシア・東欧学会, 日本スラブ東欧学会合同大会, 2011年10月22日, 東京国際大学(川崎市)

⑦平田武「東中欧諸国における政党システムの『安定化』をめぐって」日本比較政治学会研究大会, 2009年6月27日, 京都大学(京都)

⑧月村太郎「内戦後の旧ユーゴ諸国とEU加盟—その展望とジレンマ」日本政治学会大会, 2009年10月10日, 日本大学(東京)

⑨中田瑞穂「政党戦略におけるリンケージモードと政党間競合パターン—チェコとスロヴァキアを事例」日本比較政治学会大会, 日本比較政治学会大会, 2010年6月20日, 東京外国語大学(府中市)

⑩中田瑞穂「経済発展、市民社会、及び民主制の型をめぐって」日中韓共同研究「東アジアにおける民主化と開発」シンポジウム, 2010年2月20-21日, 名古屋大学(名古屋市)

⑪Nakata, Mizuho, “Party strategy and party competition structure: Emerging bipolar competition in the CEE party systems?” 60th Political Studies Association Annual Conference, Mar. 31, 2010, Edinburg (UK)

⑫Nakata, Mizuho, “Institutionalization of the modes of party competition: Emerging bipolar competition in the CEE party systems?” 5th ECPR General Conference, Sep. 12, 2009, Potsdam Univ. (Germany)

⑬上谷直克・舟木律子「上からの動員か下からの参加か—ラテンアメリカの『急進左派』政権下における民主主義の実践」日本比較政治学会大会, 2011年6月19日, 北海道大学(札幌市)

〔図書〕(計8件)

① Hayashi Tadayuki & Atsushi Ogushi, eds., *Post-Communist Transformations: The Countries of Central and Eastern Europe and Russia in Comparative Perspective*, Sapporo: Slavic Research Centre (Hokkaido University), 2009, 180.

②仙石学・林忠行編『ポスト社会主義期の政治と経済—旧ソ連・中東欧の比較』北海道大学出版会, 2011, 350.

③仙石学・林忠行編『体制転換研究の先端的議論』北海道大学スラブ研究センター, 2010, 90.

④村上勇介・仙石学編『ネオリベラリズムの実践現場—中東欧・ロシアとラテンアメリカ—』京都大学出版会, 2013, 320.

⑤Murakami, Yusuke, ed., *América Latina en la era posneoliberal: democracia, conflictos y desigualdad*, Instituto de Estudios Peruanos, 2013, 240.

⑥Murakami, Yusuke ed., *Perú en la era del Chino: la política no institucionalizada y el pueblo en busca de un salvador. 2a. edición*, Instituto de Estudios Peruanos, 2012, 780.

⑦Murakami, Yusuke, ed., *Dinámica político-económica de los países andinos*, Instituto de Estudios Peruanos, 2012, 780.

⑧Murakami, Yusuke, Hiroyuki Yamamoto, and Hiromi Komori, eds., *Enduring States*

in Face of Challenges from Within and Without, Kyoto University Press, 2011, 299.

⑨中田瑞穂『「農民と労働者の民主主義」—戦間期チェコスロヴァキア政治史』名古屋大学出版会, 2012, 386.

⑩月村太郎編『地域紛争の構図』晃洋書房, 2013, 298.

6. 研究組織

(1) 研究代表者

林 忠行 (HAYASHI TADAYUKI)
京都女子大学・現代社会学部・教授
研究者番号：90156448

(2) 研究分担者

村上 勇介 (MURAKAMI YUSUKE)
京都大学・地域研究統合情報センター・准教授

研究者番号：70290921

仙石 学 (SENGOKU MANABU)
西南学院大学・経済学部・教授
研究者番号：30289508

月村 太郎 (TSUKIMURA TARO)
同志社大学・政策学部・教授
研究者番号：70163780

平田 武 (HIRATA TAKESHI)
東北大学・法学（政治学）研究科・教授
研究者番号：90238361

出岡 直也 (IZUOKA NAOYA)
慶應義塾大学・法学部・教授
研究者番号：50151486

中田 瑞穂 (NAKATA MIZUHO)
明治学院大学・国際学部・教授
研究者番号：70386506

横田 正顕 (YOKOTA MASA AKI)
東北大学・法学（政治学）研究科・教授
研究者番号：30328992

上谷 直克 (上谷直克)
独立行政法人 日本貿易振興機構 アジア経済研究所・地域研究センター・副主任
研究員
研究者番号：80450542